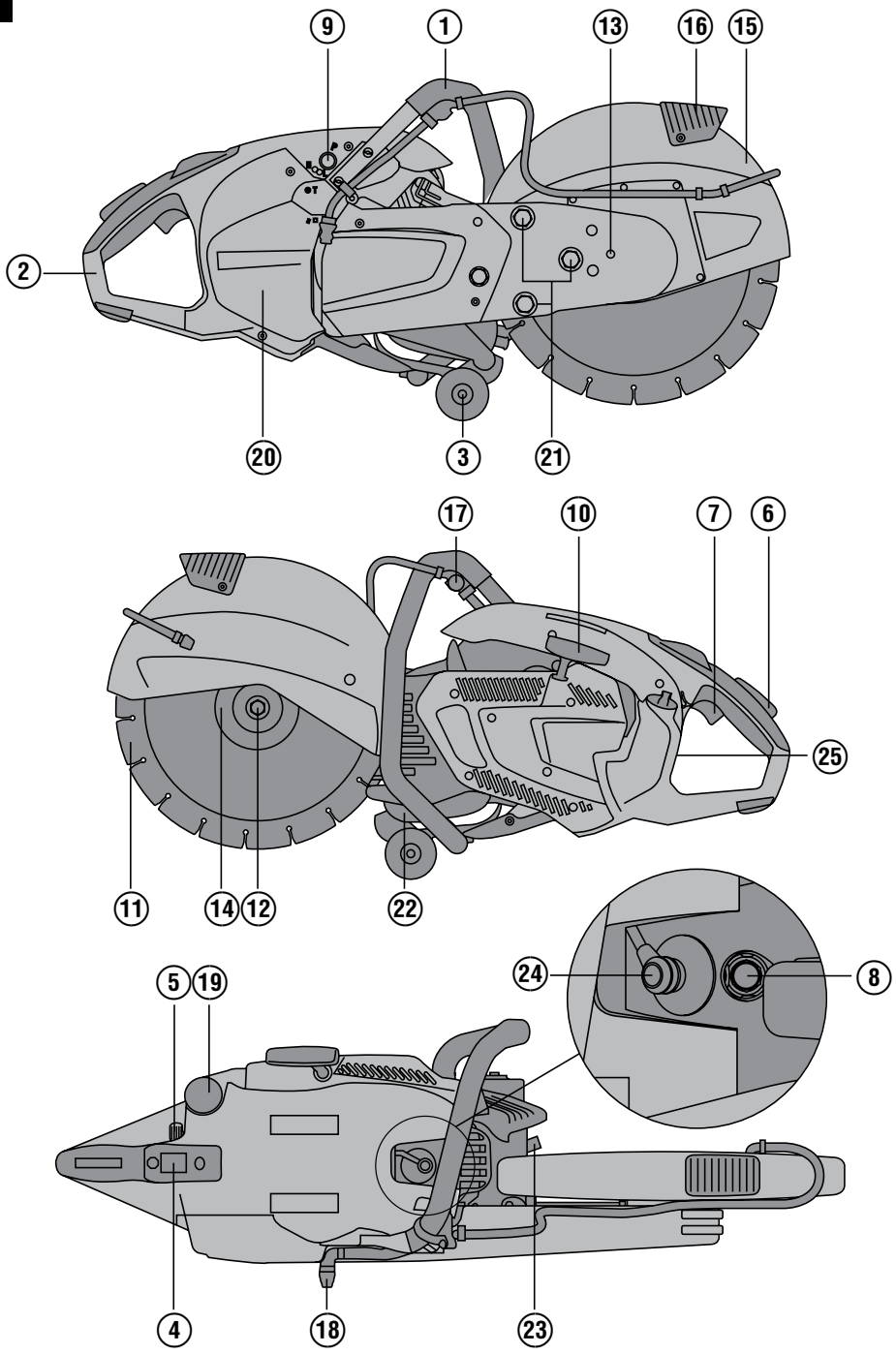


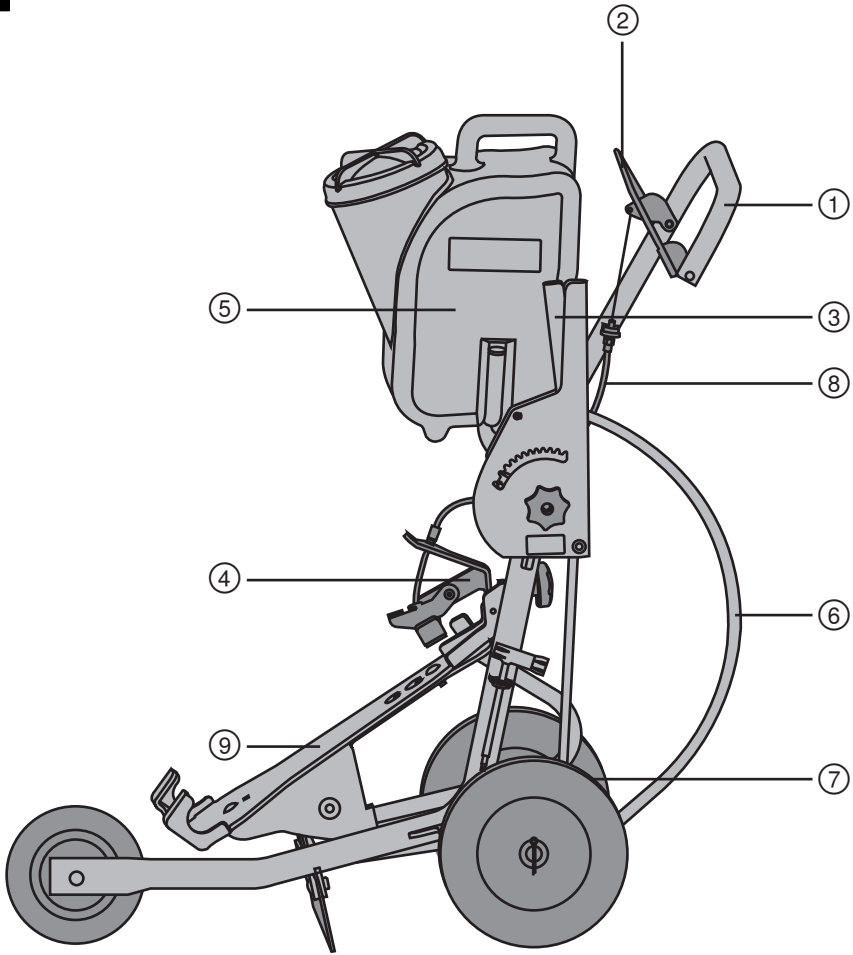
Bedienungsanleitung	de
Operating instructions	en
Mode d'emploi	fr
Istruzioni d'uso	it
Manual de instrucciones	es
Manual de instruções	pt
Gebruiksaanwijzing	nl
Brugsanvisning	da
Bruksanvisning	sv
Bruksanvisning	no
Käyttöohje	fi
Használati utasítás	hu
Instrukcja obsługi	pl
Инструкция по эксплуатации	ru
Návod k obsluze	cs
Návod na obsluhu	sk
Upute za uporabu	hr
Navodila za uporabo	sl
Ръководство за обслужване	bg
Instrucțiuni de utilizare	ro
Kullanma Talimatı	tr
دليل الاستعمال	ar
取扱説明書	ja
사용설명서	ko
操作說明書	zh
操作说明书	cn



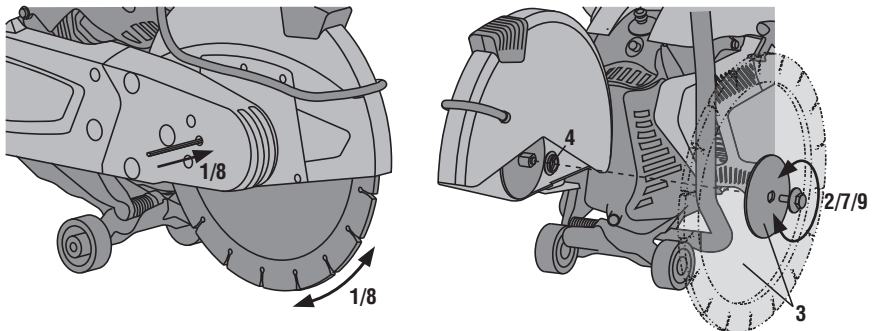
1

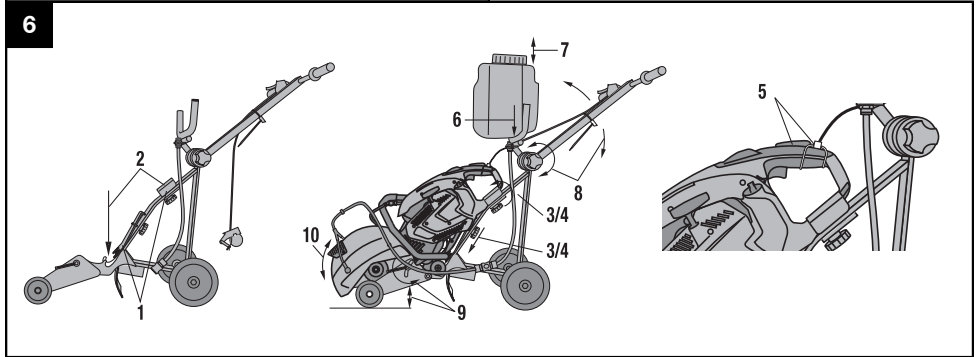
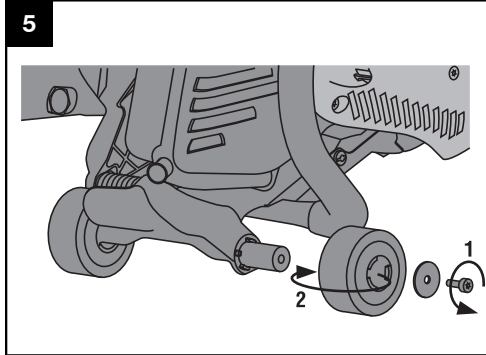
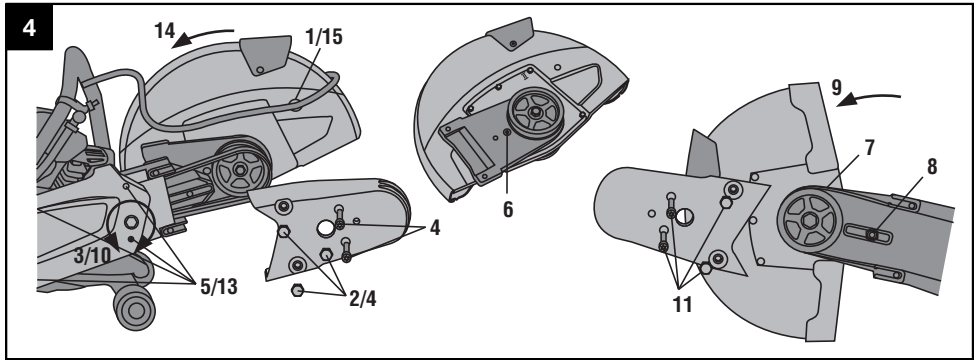


2

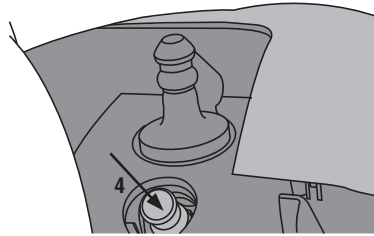
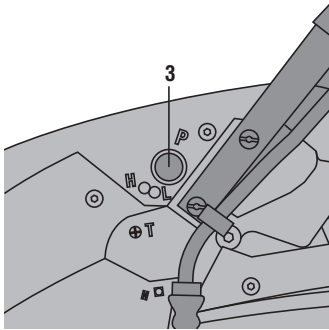
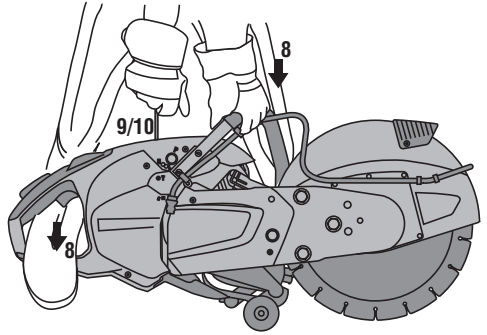
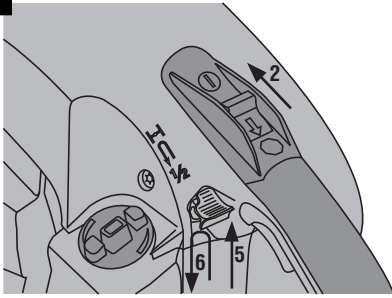


3

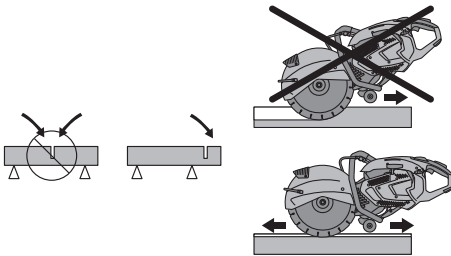




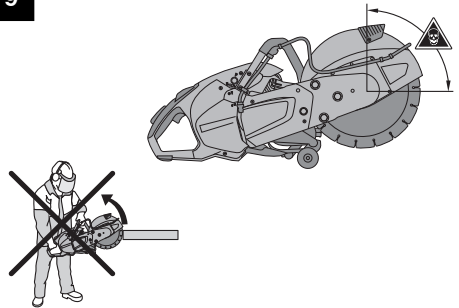
7



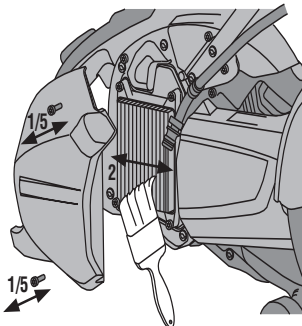
8



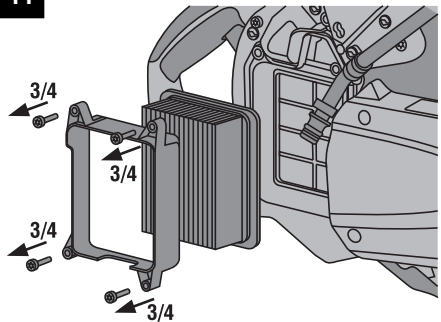
9

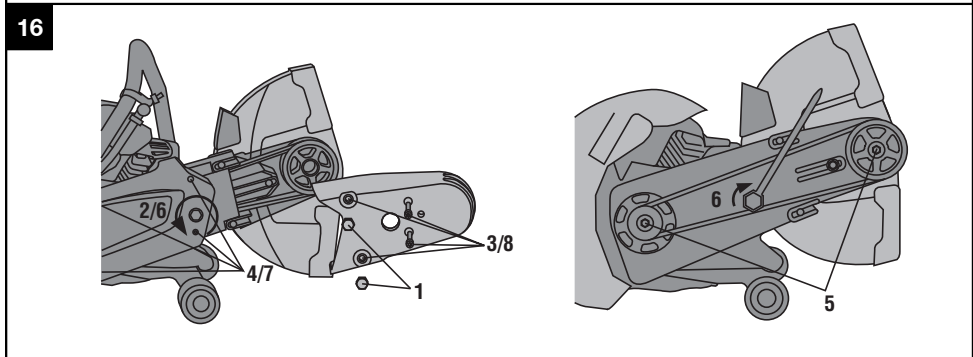
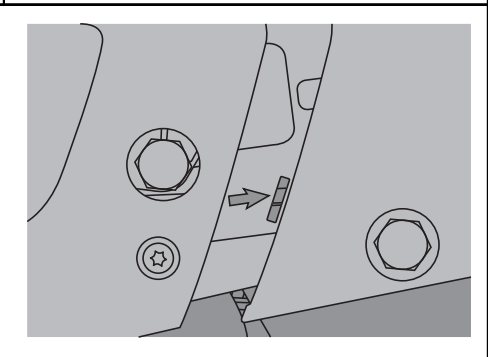
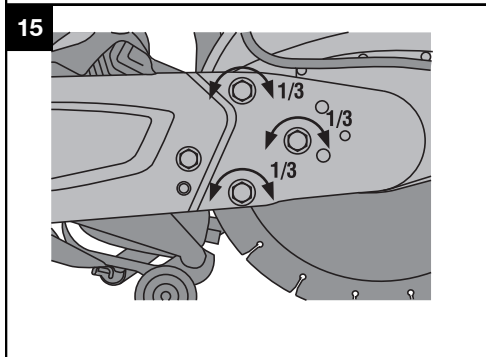
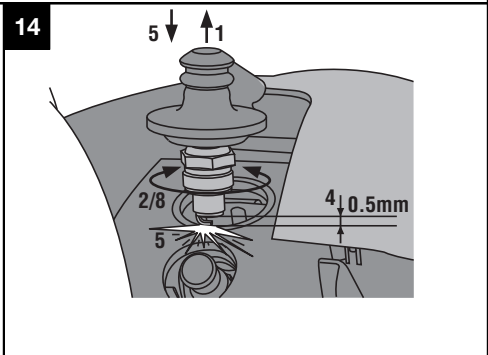
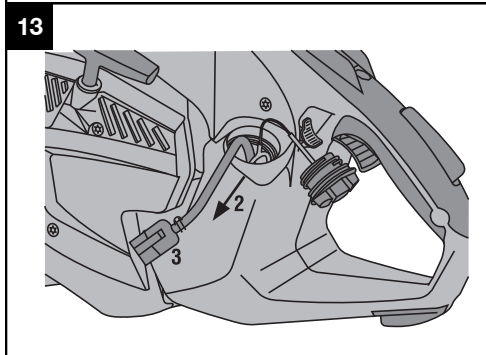
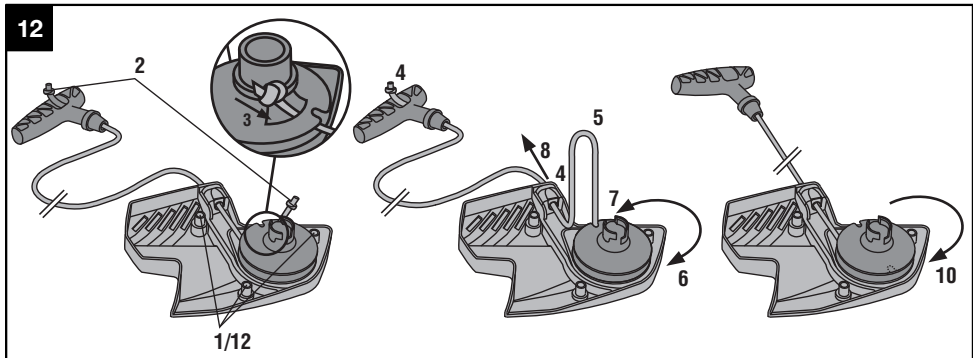


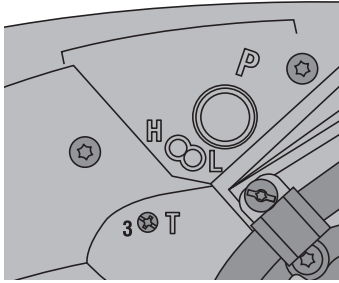
10



11







DSH 700/ DSH 900 ガソリン式切断ソー

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。

目次	頁
1 一般的な注意	418
2 製品の説明	419
3 アクセサリー	420
4 製品仕様	421
5 安全上の注意	423
6 ご使用前に	425
7 ご使用方法	428
8 手入れと保守	430
9 故障かな? と思った時	433
10 廃棄	434
11 本体に関するメーカー保証	435
12 EU 規格の準拠証明 (原本)	435

■ この数字は該当図を示しています。図は取扱説明書の冒頭にあります。

この取扱説明書で「本体」と呼ばれる工具は、常にDSH 700 ガソリン式切断ソーまたはDSH 900 ガソリン式切断ソーを指しています。

DSH 700/DSH 900 の各部名称、操作部 / 表示部名称 ■

- ① 前部グリップ
- ② 後部グリップ

- ③ ガイドローラー
- ④ オン / オフスイッチ
- ⑤ チョークプルレバー / ハーフスロットルロック
- ⑥ 安全スロットルグリップ
- ⑦ スロットルレバー
- ⑧ 減圧バルブ
- ⑨ 燃料吸引ポンプ
- ⑩ ワイヤースターター
- ⑪ カットオフホイール
- ⑫ テンションボルト
- ⑬ カットオフホイール交換用ロックボア
- ⑭ テンションフランジ
- ⑮ 保護カバー
- ⑯ ブレード保護調整グリップ
- ⑰ 給水バルブ
- ⑱ 給水コネクター
- ⑲ 燃料タンクキャップ
- ⑳ エアフィルターカバー
- ㉑ ベルトテンション
- ㉒ 排気部 / サイレンサー
- ㉓ スパークフィルター
- ㉔ 点火プラグコネクター
- ㉕ 銘板

ガイドキャリッジ DSH-FSC ■

- ① グリップ
- ② スロットルレバー
- ③ 切り込み深さ設定
- ④ ダウンホルダー
- ⑤ 給水タンク
- ⑥ 給水コネクター
- ⑦ 軸調整
- ⑧ スロットルワイヤー
- ⑨ 本体キャリア

1 一般的な注意

1.1 安全に関する表示とその意味

危険

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

警告事項

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

注意

この表記は、軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

注意事項

この表記は、本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

1.2 記号の説明と注意事項

禁止表示



クレーンによる搬送
禁止

警告表示



一般警告
事項



高温に関する
警告事項



スパーク飛散による火災に関する
警告事項



反動に関する
警告事項



有害な揮発性ガスおよび排気ガスの吸引に関する警告
事項



使用する
カットオフ
ホイールの
最低許容
回転数

義務表示



ご使用
前に取扱説
明書をお
読みくだ
さい



保護手
袋を着用し
てください



安全靴を着
用してくだ
さい



耳栓、保
護メガネ、
防じんマス
クおよび保
護ヘルメッ
トを使用し
てください



歯付きカッ
トオフホイ
ールは使
用しないで
ください



損傷した
カットオフ
ホイール
は使用しな
いでくだ
さい



禁煙およ
び火気の取
り扱い禁止

略号

/min

毎分回転数



エンジン停
止装置

P

燃料吸引
ポンプ

機種名・製造番号の表示箇所

機種名および製造番号は本体の銘板に表示されています。当データを御自身の取扱説明書にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

機種名：

製品世代：01

製造番号：

2 製品の説明

2.1 正しい使用

本体は手持ちまたはガイドキャリッジとともに使用して、研磨カットオフホイールまたはダイヤモンドカットオフホイールによりアスファルト、鋳物製建設材料あるいは金属製建設材料を乾式および湿式切断するためのものです。

切断時に発生する粉じんを抑えるために、できるだけ湿式切断での作業を推奨します。

作業区域としては、建設現場、工場での改修・改築・新築工事などが考えられます。

けがの可能性を防ぐため、必ずヒルティ純正の、アクセサリーや先端工具のみを使用してください。

ご使用になるアクセサリーの安全および操作上の注意事項にもご留意ください。

健康を損なう恐れのある母材（アスベストなど）への加工は許されません。

取扱説明書に記述されている使用、手入れ、保守に関する事項に留意してご使用ください。

各国の労働安全衛生法に従ってください。

本体はプロ仕様で製作されており、本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入力していなければなりません。本体および付属品の、使用法を知らない者による誤使用、あるいは規定外使用は危険です。

周囲状況を考慮してください。火災や爆発の恐れがあるような状況では、本体を使用しないでください。

本体の加工や改造は許されません。

通気性の悪い、閉じられた空間で作業しないでください。

2.2 本体標準セット構成品：

- 1 本体
- 1 ツールセット DSH
- 1 取扱説明書
- 1 消耗部品セット DSH

2.3 手持ちガソリン式切断ソー用研磨カットオフホイール

ガソリン式切断ソー用研磨カットオフホイールは合成樹脂結合砥粒物で構成されています。破断特性と結合力を向上するために、このカットオフホイールは構造強化組織または繊維を含んでいます。

注意事項

ガソリン式切断ソー用研磨カットオフホイールは主に鉄類および非鉄金属の切断に使用します。

注意事項

切断する建設材料に応じて、結合方法や結合強度の異なる酸化アルミニウム、炭化ケイ素、ジルコニウムなどのさまざまな砥粒が使用されます。

2.4 手持ちガソリン式切断ソー用ダイヤモンドカットオフホイール

ガソリン式切断ソー用のダイヤモンドカットオフホイールは、ダイヤモンドセグメント入り鋼製ブレード（金属結合式工業用ダイヤモンド）で構成されています。

注意事項

セグメントタイプまたは閉じたカッターエッジ付きのダイヤモンドカットオフホイールは、主にアスファルトや鉱物製建設材料の切断に使用します。

2.5 カットオフホイールの仕様

本体には EN 13236 の規定に準拠したダイヤモンドカットオフホイールを使用してください。本体は、EN 12413（ストレートでオフセットなしの形状、タイプ 41）に準拠した繊維強化合成樹脂カットオフホイールを使用して、金属製建設材料を加工することもできます。カットオフホイールメーカーの使用および取り付けに関する注意事項も参照してください。

2.6 推奨する使用方法

切断する作業材料を 1 回の作業工程で切断するのではなく、数回に分けて少しずつ希望の切り込み深さになるように作業してください。

乾式切断の場合にはダイヤモンドカットオフホイールの損傷を避けるため、本体作動時には 30 ...60 秒毎にカットオフホイールを約 10 秒間、切断面から持ち上げるようにしてください。

切断時に発生する粉じんを抑えるために、できるだけ湿式切断での作業を推奨します。

3 アクセサリー

DSH 700 および DSH 900 のアクセサリ

名称	略号	商品番号、製品の説明
ダイヤモンドカットオフホイール		000000、メインカタログを参照
研磨カットオフホイール		000000、メインカタログを参照
2 サイクルエンジン用オイル	DSH (1 L)	365827
給水装置	DWP 10	365595
ガイドキャリッジ	DSH-FSC	431364
保護ヘルメット		267736
ケース	DSH	365828
消耗部品セット	DSH	365602

DSH 700 の消耗品および摩耗部品

名称	略号	商品番号
エアフィルター	DSH	261990
ワイヤー (5 本)	DSH	412230
スターター	DSH 700	359425
ベルト	DSH 12/14 インチ	359476
フィルターエレメント	DSH	412228
点火プラグ	DSH	412237

名称	略号	商品番号
ツールセット	DSH	359648
シリンダーセット	DSH 700	412245
固定用ネジ一式	DSH	412261
フランジ (2 個)	DSH	412257
センタリングリング 20 mm 1 インチ	DSH	412264

DSH 900 の消耗品および摩耗部品

名称	略号	商品番号
エアフィルター	DSH	261990
ワイヤー (5 本)	DSH	412230
スターター	DSH 900	359427
ベルト	DSH 12/14 インチ	359476
ベルト	DSH 16 インチ	359477
フィルターエレメント	DSH	412228
点火プラグ	DSH	412237
ツールセット	DSH	359648
シリンダーセット	DSH 900	412384
固定用ネジ一式	DSH	412261
フランジ (2 個)	DSH	412257
センタリングリング 20 mm 1 インチ	DSH	412264

4 製品仕様

技術データは予告なく変更されることがあります。

注意事項

本説明書に記載されている振動レベルは、EN ISO 19432 に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。ガソリン式切断ソーを比較するのにご使用いただけます。振動負荷の暫定的な予測にも適しています。記載されている振動レベルは、本体の主要な使用方法に対する値です。本体を他の用途に使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、振動レベルが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で振動負荷が著しく高くなる可能性があります。手持ち式システムの振動による過度な負荷は血行障害（たとえばレイノー病など）を引き起こす恐れがあります。振動負荷を正確に予測するためには、本体のスイッチをオンにしても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で振動負荷が著しく低くなる可能性があります。作業者を振動による作用から保護するために、他にも安全対策を立ててください（例：本体や先端工具の手入れや保守を行う、手を冷やさないようにする、作業手順の計画を立てるなど）。

本体	DSH 700 30 cm/12 インチ	DSH 700 35 cm/14 インチ	DSH 900 35 cm/14 インチ	DSH 900 40 cm/16 インチ
エンジン仕様	空冷式単気筒 2 ストロークエンジン	空冷式単気筒 2 ストロークエンジン	空冷式単気筒 2 ストロークエンジン	空冷式単気筒 2 ストロークエンジン
排気量	68.7 cm ³	68.7 cm ³	87 cm ³	87 cm ³
重量 (カットオフホイールを含まず、タンク空)	11.3 kg	11.5 kg	11.7 kg	11.9 kg

ja

本体	DSH 700 30 cm/12 インチ	DSH 700 35 cm/14 インチ	DSH 900 35 cm/14 インチ	DSH 900 40 cm/16 インチ
重量 (ガイドキャリッジ含む、カットオフホイール含まず、タンク空)	42.3 kg	42.5 kg	42.7 kg	42.9 kg
公称出力	3.5 kW	3.5 kW	4.3 kW	4.3 kW
最高スピンドル回転数	5,100/min	5,100/min	5,100/min	4,700/min
エンジン回転数	10,000±200/min	10,000±200/min	10,000±200/min	10,000±200/min
アイドル回転数	2,500... 3,000/min	2,500... 3,000/min	2,500... 3,000/min	2,500... 3,000/min
ホイールを含む外形寸法 (長さ x 幅 x 高さ) mm	783 x 261 x 434	808 x 261 x 434	808 x 261 x 434	856 x 261 x 466
点火 (タイプ)	点火タイミング電子制御	点火タイミング電子制御	点火タイミング電子制御	点火タイミング電子制御
電極ギャップ	0.5 mm	0.5 mm	0.5 mm	0.5 mm
点火プラグ	メーカー : NGK タイプ : CMR7A-5	メーカー : NGK タイプ : CMR7A-5	メーカー : NGK タイプ : CMR7A-5	メーカー : NGK タイプ : CMR7A-5
キャブレター	メーカー : Walbro モデル : WT タイプ : 895	メーカー : Walbro モデル : WT タイプ : 895	メーカー : Walbro モデル : WT タイプ : 895	メーカー : Walbro モデル : WT タイプ : 895
混合燃料	ヒルティオイル 2% (50 : 1) または TC オイル 4% (25 : 1)	ヒルティオイル 2% (50 : 1) または TC オイル 4% (25 : 1)	ヒルティオイル 2% (50 : 1) または TC オイル 4% (25 : 1)	ヒルティオイル 2% (50 : 1) または TC オイル 4% (25 : 1)
タンク容量	900 cm ³	900 cm ³	900 cm ³	900 cm ³
カッターホルダー	可逆	可逆	可逆	可逆
ホイールボア径 / スピンドル取り付け穴	20 mm または 25.4 mm	20 mm または 25.4 mm	20 mm または 25.4 mm	20 mm または 25.4 mm
最大ホイール外径	308 mm	359 mm	359 mm	410 mm
最小フランジ外径	102 mm	102 mm	102 mm	102 mm
最大ホイール厚 (メインブレード厚)	5.5 mm	5.5 mm	5.5 mm	5.5 mm
最大切り込み深さ	100 mm	125 mm	125 mm	150 mm
サウンドプレッシャーレベル * Lpa,eq ISO 19432 (ISO 11201)	99 dB (A)	99 dB (A)	102 dB (A)	102 dB (A)
サウンドプレッシャーレベル Lpa,eq の不確実性	2.8 dB (A)	2.8 dB (A)	3.0 dB (A)	3.0 dB (A)
サウンドパワーレベル (測定値) 2000/14/EC (ISO 3744)	108 dB (A)	108 dB (A)	112 dB (A)	112 dB (A)
サウンドパワーレベル (測定値) の不確実性	2.5 dB (A)	2.5 dB (A)	2.5 dB (A)	2.5 dB (A)
サウンドパワーレベル (保証値) Lwa 2000/14/EC (ISO 3744)	111 dB (A)	111 dB (A)	115 dB (A)	115 dB (A)

本体	DSH 700 30 cm/12 インチ	DSH 700 35 cm/14 インチ	DSH 900 35 cm/14 インチ	DSH 900 40 cm/16 インチ
振動値 * ahv,eq グリップ、前/後 ISO 19432 (EN 12096)	4.5 / 3.2 m/s ²	4.7 / 5.0 m/s ²	6.3 / 6.2 m/s ²	5.2 / 4.5 m/s ²
振動値の不確実性	2.4 / 2.1 m/s ²	2.2 / 2.1 m/s ²	1.9 / 2.7 m/s ²	2.3 / 2.1 m/s ²
備考	* サウンドプレッシャーレベルおよび振動値は、1/7 のアイドリングおよび6/7 のフルスロットルを考慮して測定したものです。	* サウンドプレッシャーレベルおよび振動値は、1/7 のアイドリングおよび6/7 のフルスロットルを考慮して測定したものです。	* サウンドプレッシャーレベルおよび振動値は、1/7 のアイドリングおよび6/7 のフルスロットルを考慮して測定したものです。	* サウンドプレッシャーレベルおよび振動値は、1/7 のアイドリングおよび6/7 のフルスロットルを考慮して測定したものです。

5 安全上の注意

この取扱説明書の各項に記載された安全注意事項の外に、下記事項を必ず守ってください。

5.1 一般的な安全対策

- 用途に合った工具をご使用ください。本体を本来の目的以外には使用しないでください。必ず、指示にしたがい、不具合のない状態で使用してください。
- 回転部分には手を触れないでください。本体の電源は必ず作業場に入れてください。回転部分、特に回転している先端工具に触れると負傷の原因となります。
- 取扱説明書に記載されたヒルティ純正の付属品、アクセサリーのみを使用してください。取扱説明書に指定されていない付属品やアクセサリーを使用されると、怪我の原因となります。
- 本体およびガイドキャリッジを支えるときは、必ず両手でグリップを持ってください。グリップは乾いた清潔な状態に乾か、オイルやグリスを付着させないでください。
- 支持壁やその他の構造物への穴明け、特に鉄筋または鉄骨梁の除去は静力学に影響を及ぼします。作業を開始する前に、担当の静力学専門家や建築家、あるいは現場管理責任者に問い合わせてください。
- 本体に負荷をかけ過ぎないでください。規定の出力範囲で十分に効率的で安全な作業が可能です。
- 本体は必ず保護カバーを付けて使用してください。
- 使用中に火花の発生が作業者や関係者などに危険とならないように注意してください。そのために保護カバーを正しく調整してください。
- 本体の保護カバーを正しく調整してください。保護カバーは本体に確実に固定してください。保護機能を最大限に発揮できるように、カットオフホイールの保護されない部分ができるだけ作業者の方に向かないようにカバーの位置を決めてください。保護カバーは、折れたカットオフホイール破片の飛散やカットオフホイールとの不意の接触から作業者を保護します。
- 本体を使用しない時には、確実に保管してください。未使用時には、本体を乾いた高い場所に施設し、子供が触れない状態で保管してください。
- 搬送の際には本体をオフにしてください。

- 本体を置く際には、本体がしっかりと安定していることを確認してください。
- 使用後は本体をオフにしてください。
- 本体の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。これにより本体の安全性維持が確実におこなわれます。
- 本体のお手入れは慎重におこなってください。本体の可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、本体の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。本体を再度ご使用になる前に、損傷部分の修理を依頼してください。事故の多くは、保守管理の不十分な本体を使用したことが原因で発生しています。
- カットオフホイールを交換する場合や保護カバーを調整する場合は、本体をオフにしてください。
- 作動中の本体を不意に下に置かないでください。
- 作業材料は常にフルスロットル位置で切断してください。
- 埋設された電線が先端工具で損傷する恐れがある場合は、本体の絶縁されたグリップを保持して作業してください。電流の流れている電線に触れると、本体の絶縁されていない金属部分が通電され、作業者が感電する危険があります。
- 本体で遊んではいけないことを子供に伝えてください。
- 本体は、子供や体の弱い人が使用するには向いていません。
- 本体およびガイドキャリッジをクレーンで搬送しないでください。
- 本体およびガイドキャリッジを傾斜した面に置いて置かないでください。本体およびガイドキャリッジがしっかりと安定していることを必ず確認してください。

5.2 作業場の安全確保



- 作業場の採光に十分配慮してください。

ja

- b) 作業場の換気に十分配慮してください。作業場の換気が十分でない、粉じんによる汚染で健康が害される恐れがあります。
- c) 閉じた空間で作業しないでください。排気ガス中の一酸化炭素、不完全燃焼の炭化水素およびベンゼンによる窒息の危険があります。
- d) 作業場の整理整頓に心がけてください。事故の原因となり得る危険物は作業区域から取り除いておいてください。作業場が整理整頓されていないと、事故を引き起こすことがあります。
- e) 作業材料を固定します。作業材料を締め付ける時は、必要に応じてクランプあるいは万力を使用してください。作業材料を手で持たないでください。
- f) 作業に適した作業着を着用してください。だぶだぶの衣服や装身具を着用しないでください。髪、衣服、手袋を本体の可動部に近づけないでください。だぶだぶの衣服、装身具、長い髪が可動部に巻き込まれる恐れがあります。
- g) 屋外での作業の場合には、滑り止めのついた履き物の着用をお勧めします。
- h) 本体は子供の手の届かない所に置いてください。作業場には関係者以外の人を立ち入らせないでください。
- i) 作業中は不安定な姿勢をとらないでください。足元を安定させ、常にバランスを保つようにしてください。これにより、万一電動工具が異常状況に陥った場合にも、適切な対応が可能となります。
- j) 水を満たした給水タンクのガイドキャリッジへの取り付けは、必ず本体をガイドキャリッジに取り付けた状態で行ってください。これによりガイドキャリッジが倒れるのを防止できます。
- k) 穿孔中に埋設された電線、ガス管や水道管を、損傷し、重大な事故を起こす場合があります。作業開始前には、前もって（金属探知機などで）現場調査を行ってください。例えば、作業中に誤って先端工具が電線に触れると、本体の金属部分とケーブルが通電する可能性があります。
- l) 梯子上で作業してはなりません。
- m) 本体を肩より上の高さで使用しないでください。
- n) 剥がし作業の場合には、作業側と反対の領域も保護してください。剥がれた部分が脱落、落下して他人を傷つける危険があります。
- o) 作業場の下方を保護してください。
- p) 湿式切断の場合は、水の流れを確認し、作業区域が流出した水や飛び散った水により危険にさらされたり損傷を受けたりしないように配慮してください。
- q) 作業場の下方を保護してください。

5.3 熱の危険性



- a) 先端工具は使用することで熱くなるので、先端工具の交換時には保護手袋を着用してください。
- b) 排気とエンジンはかなり熱くなります。本体は必ず両手でグリップを握って確実に保持してください。

5.4 作動液（ガソリンとオイル）

- a) ガソリンとオイルは通気性の良い場所に、規定の燃料容器に入れて保管してください。
- b) 給油前に本体を冷ましてください。
- c) 給油時には適切な漏斗を使用してください。
- d) 清掃作業にガソリンまたはその他の可燃性の液体を使用しないでください。
- e) 作業区域内では本体への給油を行わないでください。
- f) 給油の際には、ガソリンがこぼれないように注意してください。

5.5 切断作業で生じたノロ

ノロに皮膚が触れないようにしてください。

5.6 揮発性ガス



- a) 給油時は禁煙です。
- b) ガソリン蒸気と排気ガスの吸い込みを防止してください。
- c) 熱い火花を含む排気ガスおよび切断時に発生する火花は火災や爆発を引き起こす可能性があります。発生する火花が可燃性の物質（ガソリン、乾燥した草など）または爆発性物質（ガスなど）に引火しないことを確認してください。

5.7 粉じん



- a) 切断時（特に乾式切断時）には健康を害する粉じんが多量に発生します。本体使用中は、作業者および現場の直近に居合わせる人は適切な防じんマスクを着用しなければなりません。
- b) 不明の材料を処理する場合、化学物質を含んだ粉じんやガスが発生することがあります。このような物質は、重大な健康障害を引き起こす可能性があります。発注者または所轄官庁に物質の危険性について問い合わせてください。作業者および周囲に居合わせる人は必ず該当物質に対して許可された防じんマスクを着用してください。
- c) 鉱物製材料やアスファルトの切断時に発生する粉じんを抑えるために、できるだけ湿式切断での作業を推奨します。
- d) 含鉛塗料、特定の種類の木材、鉱物、金属などの母材から生じた粉じんは、健康を害する恐れがあります。作業者や近くにいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が処理を行うようにしてください。切断時に発生する粉じんを抑えるために、できるだけ湿式切断での作業を推奨します。作業場の換気に十分配慮してください。フィルタークラス P2 の防じんマスクの着用をお勧めします。処

理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。

5.8 使用者に留意して頂くこと

- a) 休憩を取って緊張をほぐし、指を動かして血の巡りを良くするように心がけてください。
- b) 本体を使用の際には、油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には本体を使用しないでください。本体使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。

5.9 カットオフホイールを使用した切断作業に関する安全上の注意



- a) 切断工具がメーカーの指示に従って取り付けられていることを確認してください。
- b) 切断工具の保管および取り扱いにはメーカーの指示に従い、細心の注意を払って行ってください。
- c) 必ず許容回転数が本体の最高回転数以上の切断工具を使用しないでください。
- d) セパレーティングツールが損傷していたり、回転が不安定であったり、振動が発生したりする場合は、ツールを使用してはなりません。
- e) 先端工具の外径と厚さは本体の仕様に対応するものでなければなりません。間違ったサイズの前端工具は十分に絶縁または制御できません。
- f) 歯付き切断工具は使用しないでください。この種の前端工具を使用すると、頻繁に反力が生じたり本体が制御不能になったりします。
- g) 本体は均等に送り、カットオフホイールに横方向の力を加えないでください。本体は常に作業材料に対して直角に当ててください。切断作業中は、横方向の力を加えたりカットオフホイールを曲げたりして切断方向を変えないでください。カットオフホイールの破断および損傷の危険があります。
- h) カットオフホイールを手で止めようとししないでください。
- i) カットオフホイール、フランジ、その他のアクセサリは本体のスピンドルに正確に適合しなければなりません。本体のスピンドルに正確に適合しない先

端工具は、回転が不安定になり、非常に激しい振動を起して制御不能に陥る恐れがあります。

- j) 使用するカットオフホイールに適した直径で、損傷のない固定フランジのみを使用してください。適切な固定フランジはカットオフホイールをサポートし、カットオフホイールが破損する可能性を低減します。
- k) カットオフホイールを取り付ける際には、必ずカットオフホイールの規定の回転方向と本体の回転方向が一致していることを確認してください。
- l) カットオフホイールはメーカーが推奨する方法に従って保管してください。誤った保管はカットオフホイールの損傷の原因となることがあります。
- m) 厚さが 5.5 mm (0.22 インチ) 以上のカットオフホイールは使用しないでください。
- n) カットオフホイールは指示に従って本体から取り外してください。カットオフホイールを取り付けたまま搬送すると、カットオフホイールが損傷することがあります。
- o) 湿式切断で使用したガソリン式切断ソー用研磨ホイールはその日のうちに手入れしてください。濡れたり湿ったりした状態のまま放置しておくとカットオフホイールの強度が落ちます。
- p) 合成樹脂カットオフホイールの有効期限に注意し、有効期限が過ぎたカットオフホイールは使用しないでください。
- q) 切れ味が悪くなったダイヤモンドカットオフホイール（ダイヤモンドが結合部から出ていない）は、砂石などの研磨性の母材を切断することによって砥いでください。
- r) 損傷したダイヤモンドカットオフホイールを使用しないでください（メインブレードの亀裂、セグメントの欠けまたは切れ味が悪くなったセグメント、損傷した取り付け穴、反りまたは変形のあるメインブレード、過熱による大きな変色、ダイヤモンドセグメント下部が摩耗したメインブレード、側部の突出がないダイヤモンドセグメントなど）。

5.10 個人保護用具



本体使用中、作業者および現場で直近に居合わせる人は保護メガネ、保護ヘルメット、耳栓、保護手袋および安全靴を着用しなければなりません。

ja

6 ご使用前に



6.1 燃料

注意事項

2 サイクルエンジンはガソリンとオイルの混合燃料で作動します。混合燃料の品質はエンジンの機能と寿命に決定的な影響を及ぼします。

注意

ガソリンが皮膚に直接触れないようにしてください。

注意

ガソリン蒸気の吸い込みを防止するため、作業場の換気に十分配慮してください。

注意

規定に合った燃料容器を使用してください。

注意

アルキル化ガソリンは従来のガソリンと同じ密度（重量）ではありません。アルキル化ガソリンを使用する場合には、損傷を防ぐためにヒルティサービスセンターに本体の再調整を依頼する必要があります。あるいはオイル濃度を4%（1：25）に引き上げることも可能です。

6.1.1.2 サイクルエンジン用オイル

空冷式エンジン用のヒルティ 2 サイクルエンジン用オイルまたは TC クラスの高品質 2 サイクルエンジン用オイルを使用してください。

6.1.2 ガソリン

オクタン価 RON 90 以上のレギュラーガソリンまたはハイオクガソリンを使用してください。使用する燃料のアルコール濃度（エタノール、メタノールなど）は10%以下でなければなりません。これを守らないと、エンジンの寿命が大幅に低下します。

6.1.3 燃料の混合

注意

間違った混合比の燃料または不適切なオイルを使用すると、エンジンが損傷します。ヒルティの 2 サイクルエンジン用オイルは、オイル 1 + ガソリン 50 の混合比で使用してください。TC クラスの高品質 2 サイクルエンジン用オイルは、オイル 1 + ガソリン 25 の混合比で使用してください。

1. まず必要な量の 2 サイクルエンジン用オイルを燃料容器に入れます。
2. 次にガソリンを燃料容器に入れます。
3. 燃料容器を閉じます。
4. 燃料容器を揺すって燃料を混ぜます。

6.1.4 混合燃料の保管

注意

燃料容器内に圧力が形成されることがあります。したがって燃料容器のキャップは慎重に開いてください。

注意

燃料は通気性の良い、乾燥した場所に保管してください。

混合燃料は数日分の必要量のみを作ってください。ときどき燃料容器を清掃してください。

6.1.5 燃料の補給 / 本体への給油



注意

作業区域内で本体に給油しないでください（作業場から 3 m 以上離れてください）。

危険

給油時は禁煙です。

注意

裸火や火花がガソリン蒸気に引火する可能性がある場所で本体に給油しないでください。

注意

エンジン作動時には本体への給油は行わないでください。

注意

エンジンが熱いうちは、本体に給油を行わないでください。

注意

給油時には保護手袋を着用してください。

注意

燃料をこぼさないでください。

注意

燃料給油時に燃料で衣服が汚れた場合は、必ず衣服を着替えてください。

注意

燃料をこぼしてしまった場合は、給油後に本体およびアクセサリを清掃してください。

危険

本体に漏れがないか点検してください。燃料が流れ出ている場合は、エンジンを始動してはなりません。

1. 燃料容器を揺すって燃料（2 サイクルエンジン用オイルとガソリンの混合液）を混ぜてください。
2. 本体を安定した直立位置にします。
3. 本体の燃料タンクキャップを反時計方向に回して開きます。
4. 漏斗を使って燃料をゆっくりと注入します。
5. 本体の燃料タンクキャップを時計方向に回して閉めます。
6. 燃料容器を閉じます。

6.2 カットオフホイールの取り付け / 交換



注意

セパレーティングツールが損傷していたり、回転が不安定であったり、振動が発生したりする場合は、ツールを使用してはなりません。

注意

先端工具の許容回転数は、本体に記載された最高回転数よりも高くなければなりません。許容回転数より速く回転するアクセサリは損傷する恐れがあります。

注意

必ず取り付け穴が $\varnothing 20$ mm または $\varnothing 25.4$ mm（1 インチ）のカットオフホイールを使用してください。

注意

カットオフホイール、フランジ、研磨ディスク、その他のアクセサリは本体の研磨スピンドルに正確に適合しなければなりません。本体の研磨スピンドルに正確に適合しない先端工具は、回転が不安定になり、非常に激しい振動を起こして制御不能に陥る恐れがあります。

注意

有効期限が過ぎた繊維強化合成樹脂カットオフホイールは使用しないでください。

注意

損傷したダイヤモンドカットオフホイールを使用しないでください（メインブレードの亀裂、セグメントの欠けまたは切れ味が悪くなったセグメント、損傷した取り付け穴、反りまたは変形のあるメインブレード、過熱による大きな変色、ダイヤモンドセグメント下部が摩耗したメインブレード、側部の突出がないダイヤモンドセグメントなど）。

1. ロックピンをベルトカバーのボアに差し込み、ロックピンが噛み合うまでカットオフホイールを回します。
2. レンチで固定用ネジを反時計回りに緩めます。
3. テンションフランジとカットオフホイールを取り外します。
4. 取り付けるカットオフホイールの取り付け穴がセンターリングスリーブのスピゴットと一致しているか点検します。センターリングスリーブの一方の側には $\varnothing 20$ mm のスピゴット、もう一方の側には $\varnothing 25.4$ mm (1 インチ) のスピゴットがあります。
5. 本体およびカットオフホイールの固定面とセンターリング面を清掃します。
6. 注意カットオフホイールに矢印で記された回転方向と本体に記された回転方向が一致していることを確認してください。カットオフホイールをサポートフランジのセンターリングカラーに取り付けます。
7. 固定フランジを駆動軸に挿入し、カットオフホイールクランピングスクリューを時計回りに締め付けます。
8. ロックピンをベルトカバーのボアに差し込み、ロックピンが噛み合うまでカットオフホイールを回します。
9. カットオフホイールクランピングスクリューを 25 Nm のトルクで締め付けます。

6.3 保護カバーの調整



危険

本体は必ず付属の安全装置と共に使用してください。

危険

保護カバーを正しく調整してください。削り取られた作業材料粒子が作業者および本体に向かって飛散しないようにしてください。

警告事項

本体の取り付けまたは交換作業の前には、エンジンと切断工具を完全に停止させる必要があります。

保護カバーを専用のグリップで保持し、保護カバーを希望の位置まで回します。

6.4 通常切断位置からフラッシュ切断位置へのソーの付け替え



危険

保護カバーを正しく調整してください。削り取られた作業材料粒子が作業者および本体に向かって飛散しないようにしてください。

注意事項

重心位置がより好ましいものになりますので、フラッシュ切断の実施後はソーを再び通常位置に付け替えることを推奨します。

注意事項

作業実施後は、カットオフホイールを手で軽く回すことができるか、また全ての部品とネジが適切に固定されているか点検してください。

危険

本体は必ず付属の安全装置と共に使用してください。

切断をできるだけ縁部や壁の近くで行うことができるようにするため、カットオフホイールが後ろから見てソーアームの右側にくるように、ソーアームの前部を回すことができます。

1. ブレードガードからジェットノズルを取り外します。
2. ソーアームの前部の 3 個のロックナットを約 1 回転緩めます。
3. ベルトテンションカムを反時計方向に慎重にストップ位置まで回し（約 $\frac{1}{4}$ 回転）、駆動ベルトの張りを緩めます。
4. ソーアームの前部から 3 個のロックナットと 2 本の固定用ネジを外し、ベルトカバーとソーアームの前部を取り外します。
5. 後部ベルトカバーの 4 本の固定用ネジを外し、カバーを取り外します。
6. ソーアームの前部にある回転制限用ストップスクリューを外します。
7. 駆動ベルトを慎重にベルトプリーリーに取り付けます。
8. 前部ソーアームを前部から後部の順で取り付けます。中央のロックナットのみを取り付けます。ナットは手で締め付けるだけにしてください。
9. 開口部が後方を向くようにブレードガードを回します。
10. ベルトテンションカムを時計方向に慎重にストップ位置まで回し（約 $\frac{1}{4}$ 回転）、駆動ベルトの張りませす。

1. 前部のベルトカバーを2個のロックナットと2本の固定用ネジで固定します。
2. 3個のロックナットを締め付けます (18 Nm)。
3. 後部ベルトカバーを取り付け、4本のネジで固定します。
4. 開口部が前方を向くようにブレードガードを回します。
5. ジェットノズルをブレードガードの前部切り欠きに固定します。

6.5 ガイドローラーの回転動作のロック 5

警告事項

ソーの不意の動きや落下を防止するために、屋根、建築足場、軽く傾いた面では必ずガイドローラーの回転をロックしてください。このためには、ガイドローラーをそれぞれ180°回転させて取り付けることにより内蔵のロック機能を働かせてください。

1. ガイドローラーの固定用ネジを緩め、ガイドローラーを取り外します。
2. ローラーを180°回転させ、固定用ネジを取り付けます。
3. ガイドローラーが確実に固定されていることを確認してください。

6.6 ガイドキャリッジ 6

注意事項

広い面積の面を切断する場合には、ガイドキャリッジの使用を推奨します。

注意事項

特に初回使用時には、スロットルワイヤーが正しく調整されていることを確認してください。スロットルレバーを押した状態でガスソリン式切断ソーがフルスロットル位置にならなければなりません。そうならない場合は、ワイヤーテンショナーを回転させてスロットルワイヤーを調整することができます。

注意

ガイドキャリッジのスロットルワイヤーが引っ掛かった場合、直ちにストップスイッチで本体をオフにしてください。

危険

ご使用前に、本体が正しくガイドキャリッジに固定されていることを確認してください。

1. 切り込み深さ設定用レバーを最上位置にします。
2. スターボルトを緩めてダウンホルダーを開きます。
3. ホイール付き切断ソーを図のように前方の本体サポートにセットし、切断ソーのグリップをダウンホルダーの下に旋回します。
4. スターボルトを締め付けて切断ソーを固定します。
5. 満タンにした給水タンクを取り付けます。
6. グリップを作業しやすい高さに調整します。
7. 保護カバーを調整します。

7 ご使用方法



7.1 エンジンのスタート 7

警告事項

火傷の危険！ 排気部は運転中に非常に熱くなり、エンジンをオフにした後も長時間にわたって高温のままです。この状態は、アイドリングにおいても発生します。保護手袋を着用して熱くなっている排気部に触れないようにしてください。熱くなっている排気部に触れると重度の火傷の危険があります。

警告事項

負傷の危険！ 排気部が損傷していると、排出騒音が許容できる限度を超えて重度の聴覚障がいの原因となることがあります。排気部に損傷のある場合、排気部が取り付けられていない場合、あるいは改造した排気部が取り付けられている場合には、決して本体を使用しないでください。損傷した排気部は交換を依頼してください。

注意事項

火災の危険！ 熱くなった排気部が原因で可燃物が発火する危険があります。熱くなった排気部を可燃物の上に置かないでください。

注意事項

エンジンが排気ガスに関する基準を満たすように、排気部には触媒コンバーターが装備されています。触媒コンバーターは決して改造したり取り外したりしないでください。そのような行為は法律違反となります。

注意

母材の加工作業で、母材の破砕片が生ずる場合があります。保護メガネ、保護手袋および防じんマスク（集じん装置を使用していない場合）を着用してください。破片が身体の一部、眼などを傷つけることもあります。

注意

本体および切断作業は騒音を発生させます。耳栓を着用してください。過剰な騒音で聴力の低下を招く場合もあります。

注意

使用中に先端工具と本体部分は高温になります。先端工具の交換時には、保護手袋を着用してください。本

体は必ず所定のグリップをつかんでください。手に火傷を負う危険があります。保管および搬送の際には、高温になっている本体に可燃性の素材が接触しないように注意してください。

警告事項

作業場から 15 m の範囲内に関係者以外の人を立ち立たせてください。作業者の背後の領域にも特に注意してください。

危険

閉じた空間で作業しないでください。排気ガス中の一酸化炭素、不完全燃焼の炭化水素およびベンゼンによる窒息の危険があります。

警告事項

カットオフホイールはアイドリング時には完全に停止しななければなりません。停止しない場合は、アイドリング回転数を低下させる必要があります。これが不可能な場合または希望の結果が得られない場合は、本体を修理に出してください。

警告事項

スロットルグリップが引っ掛かっていることに気づいた場合は、直ちにオン / オフスイッチでエンジンを停止してください。

警告事項

新品のカットオフホイールを取り付けた後は、本体を無負荷状態で約 1 分間最大回転数で回転させてください。

警告事項

ご使用の前に、スタート / ストップスイッチが正しく作動するか点検してください。スイッチを「ストップ」位置に動かすと、作動中のエンジンが停止しなければなりません。

1. 本体を作業面の安定した土台の上に置きます。
2. オン / オフスイッチを「スタート」位置に切り替えます。
3. 燃料吸引ポンプ (P) を、ポンプヘッドが完全に燃料で満たされるまで 2、3 回操作します。
4. 減圧バルブを押します。
5. エンジンが冷えている場合は、チョークプルレバーを上方に引いてください。これによりチョークとハーフスロットル位置が作動します。
6. エンジンが熱くなっている場合は、チョークプルレバーを上方に引き、その後下方に押しください。これによりハーフスロットル位置のみが作動します。
7. カットオフホイールが自由に回転するか点検します。
8. 左手で前部グリップを保持し、右脚部を後部グリップの下に置きます。
9. 抵抗が感じられるまで右手でワイヤースターターをゆっくり引きます。
10. ワイヤースターターを強く引きます。
11. 最初の点火が聞こえたら (2 ... 5 回引いた後)、チョークプルレバーをスタートポジションに戻してください。

12. チョークプルレバーを閉じた状態で、エンジンが始動するまでこの動作を繰り返します。
注意事項 チョークを作動させてのスタート動作を何回も試みすぎると、エンジンが始動しなくなります。
13. エンジンが作動したら、直ちにスロットルグリップを短く押ししてください。これによりハーフスロットルロックと場合によってはチョークが非作動になり、エンジンがアイドリング回転します。

7.2 切断テクニック

危険

本体およびガイドキャリッジを支えるときは、必ず両手でグリップを持ってください。グリップは乾いた清潔な状態に保ち、オイルやグリスを付着させないでください。

危険

作業場、特に切断方向の作業領域に人がいないことを確認してください。

危険

本体は均等に送り、カットオフホイールに横方向の力を加えないでください。本体は常に作業材料に対して直角に当ててください。切断作業中は、横方向の力を加えたりカットオフホイールを曲げたりして切断方向を変えないでください。カットオフホイールの破断および損傷の危険があります。

注意

作業材料と切断部分は、不意に動かないように確実に固定してください。

注意事項

作業材料は常にフルスロットル位置で切断してください。

注意事項

切り込み深さが過度にならないようにしてください。厚い作業材料はできるだけ何回かの作業に分けて切断してください。

7.2.1 ブロックの防止 **B**

注意

カットオフディスクが噛まないようにしてください。また切断時の過度な押圧を避けてください。すぐに切り込み深さを過度に深くしようとししないでください。カットオフホイールに負荷がかかりすぎると、歪みが発生しやすくなります。切断時にカットオフホイールが噛むと、カットオフホイールの反力または破損の可能性が高まります。

注意

プレートまたは大型作業材料は、切断中および切断後に切り口が開いた状態になるように支持してください。

7.2.2 反力の防止 9

注意

本体は常に上から作業材料に当てるようにしてください。カットオフホイールは、回転ポイント下部の1つの位置のみで作業材料と接触するようにします。

注意

カットオフホイールを既存の切り込み部へと挿入する際は特に注意が必要です。

7.3 エンジンの停止

警告事項

エンジンをオン / オフスイッチで停止できない場合は、非常手段としてチョークレバーを引いてエンジンを停止してください。

警告事項

本体は必ずカットオフホイールを停止した状態で置いてください。本体は必ず立てた状態で保管および搬送してください。

1. スロットルレバーを放します。
2. スタート / ストップスイッチを「ストップ」位置に切り替えます。

8 手入れと保守



警告事項

手入れ、修理、保守作業を行う場合は、必ず本体をオフにしてください。

8.1 手入れや保守

8.1.1 作業を開始する前に

- ※ 本体が不具合のない状態で完全に機能することを点検し、必要に応じて修理します。
- ※ 本体に漏れがないか点検し、漏れの疑いがある場合は修理します。
- ※ 本体に汚れがないか点検し、必要に応じて清掃します。
- ※ 操作エレメントが正常に機能するか点検し、必要に応じて修理します。
- ※ カットオフホイールに不具合がないか点検し、必要に応じて交換します。

8.1.2 半年ごと

- ※ 外側から手の届くネジ / ナットを締め直します。
- ※ 燃料フィルターに汚れがないか点検し、必要に応じて交換します。
- ※ カットオフホイールに負荷がかかっているときにベルトが空転する場合、駆動ベルトを張り直します。

8.1.3 必要に応じて

- ※ 外側から手の届くネジ / ナットを締め直します。
- ※ 本体が始動しない場合あるいはエンジン出力の低下を確認できる場合、エアフィルターを交換します。
- ※ 燃料フィルターに汚れがないか点検し、必要に応じて交換します。
- ※ 本体が始動しない場合あるいは非常に始動しにくい場合、点火プラグを清掃 / 交換します。
- ※ カットオフホイールに負荷がかかっているときにベルトが空転する場合、駆動ベルトを張り直します。
- ※ カットオフホイールがアイドリング時に停止しない場合、アイドリング回転数を再調整します。

8.2 エアフィルターの交換 10 11



危険

粉じんが発生する作業を行っている際には、作業者および現場の直近に居合わせる人は防じんマスクを着用しなければなりません。

注意

粉じんが入り込むと本体が損傷することがあります。必ずエアフィルターを取り付けて作業してください。また損傷したエアフィルターは使用しないでください。エアフィルター交換時には本体を立て、横にしないでください。エアフィルターの下部にあるフィルタースクリーンに粉じんが達しないように注意してください。

注意事項

エンジン出力の低下を確認できる場合あるいはスタート動作が悪化してきた場合は、エアフィルターを交換してください。

注意事項

本装置では、メンテナンスフリーのサイクロンプリセパレーターにより、吸引された燃焼エアから粉じんの大部分が除去されます。このプリクリーニング機能により、従来のシステムに比べてメンテナンス費用が大幅に削減されます。

1. エアフィルターキャップの固定用ネジを外し、エアフィルターキャップを取り外します。
2. エアフィルターとフィルターチャンバーから付着した粉じんを入念に除去します（集じん機を使用）。
3. フィルターホルダーの固定用ネジを緩め、エアフィルターを取り外します。
4. 新品のエアフィルターを取り付け、フィルターホルダーで固定します。
5. エアフィルターキャップを取り付け、固定用ネジを締め付けます。

8.3 破断したスターターワイヤーの交換 12

注意

スターターワイヤーが短すぎるとハウジングを損傷することがあります。スターターワイヤーは決して短くしないでください。

1. 3本の固定用ネジを外し、スターターアセンブリーを取り外します。
2. 残っているワイヤー断片をワインディングスプールとスターターグリップから取り外します。
3. 新品のスターターワイヤーの片方の端部に固い結び目を作り、もう片方のワイヤー端部を上からワイヤーコイルに挿入します。
4. 結び目のないワイヤー端部を下からスターターハウジングのボアとスターターグリップに通し、ワイヤー端部に同じく固い結び目を作ります。
5. スターターワイヤーを図のようにハウジングから引いて、ワインディングスプールのスロットに通します。
6. スターターワイヤーをワインディングスプールのスロット付近にしっかりと保持し、ワインディングスプールを時計回りにストップ位置まで回します。
7. コイルのスロットがスターターハウジングの貫通部に重なるまで、ワインディングスプールをストップポイントから最低 $\frac{1}{2}$ 回転... 最大 $1\frac{1}{2}$ 回転戻します。
8. ワインディングスプールをしっかりと保持し、ワイヤーをハウジングからスターターグリップ方向に引きまします。
9. ワイヤーを張った状態に保ち、スターターワイヤーがひとりでに引き込まれるようにワインディングスプールを放します。
10. スターターワイヤーをストップ位置まで引き、この位置でワインディングスプールを手でさらに $\frac{1}{2}$ 回転以上時計回りに回すことができるか点検します。これが不可能な場合、スプリングを1回転反時計方向に緩める必要があります。
11. スターターアセンブリーを本体に取り付けて慎重に下方に押しまします。
スターターワイヤーを引くことにより、クラッチ部が噛み合い、スターターアセンブリーが完全に接触します。
12. スターターアセンブリーを3本の固定用ネジで固定します。

8.4 燃料フィルターの点検および交換 13

注意事項

燃料フィルターは定期的に点検してください。

注意事項

本体の給油の際には、汚れがガソリンタンク内に入り込まないように注意してください。

1. 燃料タンクを開きます。
2. 燃料タンクから燃料フィルターを引き抜きます。
3. 燃料フィルターを点検します。
燃料フィルターの汚れがひどい場合は、フィルターを交換してください。
4. 燃料フィルターを燃料タンクに元通りに挿入します。
5. 燃料タンクを閉じます。

8.5 点火プラグの清掃 / 電極ギャップの調整または点火プラグの交換 14

注意

本体を運転した直後には、点火プラグとエンジンの部品が熱くなっていることがあります。適切な保護手袋を着用するか、作業開始前に本体を冷まして火傷を防止してください。

必ず NGK-CMR7A-5 の点火プラグを使用してください。

1. 点火プラグコネクターを少し回して抜き取ります。
2. 点火プラグレンチを使用して点火プラグをシリンダーから外します。
3. 必要に応じて電極を柔らかいワイアブラシで清掃します。
4. 電極ギャップ (0.5 mm) を点検し、必要な場合はファイラージェーを使用してギャップを適切な間隔に調整します。
5. 点火プラグをプラグコネクターに挿入し、点火プラグのネジ山をシリンダーに噛み合わせます。
6. オン / オフスイッチを「スタート」位置に切り替えます。
7. **注意**点火プラグ電極に触れないでください。
スターターワイヤーを引きます (減圧バルブを押す)。
このとき点火スパークをはっきりと確認できなければなりません。
8. 点火プラグレンチを使用して点火プラグをシリンダーに締め付けます (12 Nm)。
9. 点火プラグコネクターを点火プラグに挿入します。

8.6 駆動ベルトの張り直し 15

注意

緩んだ駆動ベルトは本体に損傷を与えることがあります。カットオフホイールに負荷がかかっているときにベルトが空転する場合は、駆動ベルトを張り直してください。

注意事項

張り直し後にソーアームに摩耗の痕跡が認められる場合は、直ちに駆動ベルトを交換してください。

本体には半自動の、スプリング力で作動するベルトテンションナーが備わっています。

1. ソーアームの前部の3個のロックナットを約1回転緩めます。
2. ナットを緩めた後、駆動ベルトは自動的にスプリング力により張られます。
3. 3個のロックナットを締め付けます (18 Nm)。

8.7 駆動ベルトの交換 16

注意事項

作業実施後は、カットオフホイールを手で軽く回すことができるか、また全ての部品とネジが適切に固定されているか点検してください。

1. ソーアームの前部の3個のロックナットを約1回転緩めます。
2. ベルトテンションカムを反時計方向に慎重にストップ位置まで回し (約 $\frac{1}{4}$ 回転)、駆動ベルトの張りを緩めます。

- ソーアームの前部から上部と下部のロックナットおよび 2 本の固定用ネジを外し、ベルトカバーを取り外します。
- 後部ベルトカバーの 4 本の固定用ネジを外し、カバーを取り外します。
- 不具合のある駆動ベルトを取り外します。新品の駆動ベルトを慎重に両方のベルトプリーに取り付けます。
- ベルトテンションカムを時計方向に慎重にストップ位置まで回し (約 ¼ 回転)、駆動ベルトの張りませ。
- 後部ベルトカバーを取り付け、4 本のネジで固定します。
- 前部のベルトカバーを 2 個のロックナットと 2 本の固定用ネジで固定します。
- 3 個のロックナットを締め付けます (18 Nm)。

8.8 キャブレターの調整 17

注意

キャブレターの調整を適切に行わないと、エンジンが損傷する恐れがあります。

本体のキャブレターは納品前に最適に調整され、封印されています (ノズル H および L)。このキャブレターの場合、ユーザーによるアイドル回転数の調整 (ノズル T) が可能です。その他の調整作業は全てヒルティサービスセンターにご依頼ください。

注意事項

適切なマイナスドライバー (幅 4 mm/⁵/₃₂ インチ) を使用して、調整ネジを許容調整範囲内で適度に回します。

- エアフィルターを清掃します。
- 本体を動作温度まで暖めます。
- 本体がアイドル状態ですらに作動し、カットオフホイールが確実に停止状態に保たれるように、アイドルノズル (T) を調整します。

8.9 清掃作業

故障のない安全な作動のための最上の前提条件は、本体が入念に清掃されていることです。

エンジンおよび冷却開口部における汚れの堆積がひどい場合、過熱が発生することがあります。

- » 本体内部に異物が入らないようにしてください。
- » 高圧クリーナーや流水などによる清掃は避けてください。
- » 洗剤、磨き粉等のシリコンを含んだ清掃用具は使用しないでください。
- » 定期的に、少し湿した布または乾いたブラシで本体表面を拭いてください。
- » 全てのグリップは乾燥していて、汚れがなく、オイルやグリスが付着していないことを確認してください。

8.10 保守

本体およびアクセサリーの表面に装備されている全ての部品に損傷がないか、また全ての装置が支障なく作動するか確認してください。部品が損傷していたり装置が正しく作動しない場合は、本体を使用しないでください。ヒルティサービスセンターに本体の修理を依頼してください。

8.11 手入れと保守を行った後の点検

手入れ、保守の作業を済ませた後は、全ての安全機構が装着され、正常に作動していることを確認しなければなりません。

8.12 車両での搬送



注意

火災の恐れをなくすために、搬送前に本体を完全に冷ましてください。

注意

本体を梱包して搬送する場合は、ガソリンタンクを完全に空にしてください。搬送用に、できるだけ納品に使用されていた梱包材を取っておくことを推奨します。

- カットオフホイールを取り外します。
- 本体が倒れたり、損傷したり、燃料が流出したりしないようにしっかりと固定してください。
- ガイドキャリッジは、必ず給水タンクを空にして搬送してください。

8.13 本体の長期間の保管

危険

本体を使用しない時には、確実に保管してください。未使用時には、本体を乾いた高い場所に施錠し、子供が触れない状態で保管してください。

- 燃料タンクを空にして、本体をアイドル回転させます。
- カットオフホイールを取り外します。
- 本体を入念に清掃し、金属部分にグリスを塗布します。
- 点火プラグを取り外します。
- シリンダー内に 2 サイクルエンジン用オイルをごくわずかだけ (1、2 滴) 注ぎます。
- スターターグリップを数回引きます。これによりオイルがシリンダー内で分配されます。
- 点火プラグを取り付けます。
- 本体をプラスチックフォイルに包みます。
- 本体を保管します。

9 故障かな？ と思った時

症状	考えられる原因	処置
カットオフホイールが切断時に遅くなる、あるいは完全に停止する。	切断圧が高すぎる（カットオフホイールが切断時に嘔む）。	切断圧を低下させ、本体をまっすぐ進める。
	ベルトテンションが小さすぎる、またはベルトの亀裂。	ベルトを張る、または交換する。
	カットオフホイールの取り付けと締め付けが正しくない。	取り付けと締め付けトルクを点検する。
	カットオフホイールの回転方向が正しくない。	回転方向を点検し、必要に応じて変更する。
	ソーアームの前部が固定されていない。	ロックナットを締め付ける。
大きな振動、切断の変化。	カットオフホイールの取り付けと締め付けが正しくない。	取り付けと締め付けトルクを点検する。
	カットオフホイールの損傷（不適切な仕様、亀裂、セグメントの欠け、反り、過熱、変形など）。	カットオフホイールを交換する。
	センタリングスリーブが間違っ取り付けられている。	取り付けるカットオフホイールの取り付け穴がセンタリングスリーブのスピゴットと一致しているか点検する。
ソーが始動しない、あるいは非常に始動しにくい。	ガソリンタンクが空（キャブレターに燃料がない）。	ガソリンタンクに給油する。
	エアフィルターの汚れ。	エアフィルターを交換する。
	エンジンが停止（点火プラグが濡れている）。	点火プラグとシリンダーチャンパーを乾かす（点火プラグを取り外す）。チョークプルレバーを閉じ、スタート動作を数回繰り返す。
	混合燃料が正しくない。	本体を空にして、燃料ラインとタンクを洗浄する。タンクに正しい燃料を給油する。
	燃料ライン内にエアが侵入（キャブレターに燃料がない）。	燃料吸引ポンプを数回操作して、燃料ラインをエア抜きする。
	燃料フィルターの汚れ（キャブレターに燃料がない、またはごくわずかな燃料しかない）。	タンクを清掃し、燃料フィルターを交換する。
	点火スパークがまったく確認できない、または弱いスパークしか確認されない（点火プラグを取り外した状態）	点火プラグの燃焼損耗を清掃する。電極ギャップを点検および調整する。点火プラグを交換する。点火コイル、コード、プラグ接続、スイッチを点検し、必要に応じて交換する。
	圧縮圧力が低すぎる。	エンジン圧縮圧力を点検し、必要に応じて摩耗した部品（ピストンリング、ピストン、シリンダーなど）を交換する。
	温度が低すぎる。	本体を徐々に室温まで暖めてから、スタート動作を繰り返す。
	スパーク保護グリルまたは排気アウトレットの汚れ。	清掃する。
	減圧バルブが動きにくい。	バルブを緩める。
エンジン出力 / ソー出力が低い。	エアフィルターの汚れ。	エアフィルターを交換する。

症状	考えられる原因	処置
エンジン出力 / ソー出力が低い。	点火スパークがまったく確認できない、または弱いスパークしか確認されない（点火プラグを取り外した状態）	点火プラグの燃焼損耗を清掃する。電極ギャップを点検および調整する。点火プラグを交換する。
	正しくない燃料またはタンク内に水および汚れがある。	燃料システムを洗浄し、ガソリンフィルターを新品に交換し、燃料を交換する。
	カットオフホイールの仕様が切断する母材に対して適切でない。	仕様を変更する、またはヒルティに問い合わせる。
	駆動ベルトまたはカットオフホイールが空転する。	駆動ベルトの張りホイールの噛み込みを点検し、必要に応じて故障を修理する。
	圧縮圧力が低すぎる。	エンジン圧縮圧力を点検し、必要に応じて摩耗した部品（ピストンリング、ピストン、シリンダーなど）を交換する。
	取り扱いが正しくない、または最適でない（切断圧が高すぎる、カットオフホイールの過熱、カットオフホイールの側部の噛み込み、不適切なカットオフホイールなど）。	取扱説明書の「取り扱うための注意事項」に従う。
	海拔高度 1500 m 以上の作業。	キャブレターの調整をヒルティサービスセンターに依頼する。
	最適な混合気調整でない（燃料 / 空気混合気）。	キャブレターの調整をヒルティサービスセンターに依頼する。
カットオフホイールがアイドリング時に停止状態にならない。	アイドリング回転数が高すぎる。	アイドリング回転数を点検し、必要に応じて調整する。
	ハーフスロットル位置がロックされている。	ハーフスロットル位置を緩める。
	遠心力クラッチの故障。	遠心力クラッチを交換する。
スターターユニットが作動しない。	クラッチローが噛み合わない。	清掃すると再び動くようになる。

10 廃棄



ja

本体の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国でヒルティは、古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にお尋ねください。

ノロを廃棄する場合の推奨前処理

注意事項

環境保護の観点から、ノロを適切な前処理なしに、そのまま河川、湖水、下水施設などに流すことには問題があります。地域で適用されている法規について当局に問い合わせてください。

1. ノロを回収してください（例：産業用湿式パキュームクリーナーを使用）。
2. ノロを固ませた後に固形物として建設廃棄物処理場に運んで処理してください（綿毛を加えると固形化が早まる）。
3. ノロ（アルカリ、 $\text{pH} > 7$ ）から流れ出る水に酸性中和剤を加えるか、あるいは多量の水を加えて中性化させてから、下水に流してください。

11 本体に関するメーカー保証

保証条件に関するご質問は、最寄りのヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

12 EU 規格の準拠証明 (原本)

名称：	ガソリン式切断ソー
機種名：	DSH 700/ DSH 900
製品世代：	01
設計年：	2008

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します：2006/42/EG、2016年4月19日まで：2004/108/EG、2016年4月20日以降：2014/30/EU、2011/65/EU、2000/14/EG、EN ISO 12100、EN ISO 19432。

Hilti Corporation、Feldkircherstrasse 100、
FL-9494 Schaan



Paolo Luccini
Head of BA Quality and Process
Management
Business Area Electric Tools &
Accessories
05/2012



Johannes Wilfried Huber
Senior Vice President
Business Unit Diamond
05/2012

技術資料：

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Zulassung Elektrowerkzeuge
Hiltistrasse 6
86916 Kaufering
Deutschland



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

www.hilti.com

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan
Pos. 1 | 20150922

